

第1編

序論

- 1 総合計画策定の目的
- 2 総合計画の位置づけ
- 3 計画の構成と目標年次
- 4 総合計画策定のコンセプト
- 5 鹿島市の概要



1 総合計画策定の目的

鹿島市では、2016年度（平成28年度）から2020年度（令和2年度）を目標年度とする5年間の第六次総合計画を策定し、「みんなが住みやすく、暮らしやすいまちづくり」を目指し取り組んできました。

この間、超少子高齢化や地域経済の低迷などの社会経済情勢の急激な変化をはじめ、地震や豪雨など市民の生活を脅かす大規模災害の発生や新型コロナウイルス感染症の世界的流行による生活様式の変化、経済活動の収縮など、私たちを取り巻く環境は大きく変化してきました。

第七次総合計画は、第六次総合計画の検証に加え、市民からの意見などを取り入れ、更に、現在の社会経済情勢や今後の展望を踏まえた計画とします。

鹿島市においては、以下の理由により第七次総合計画を策定します。

- ① 市の様々な分野の個別計画において目指すべき方向性を同一にするため
- ② 市民と行政が支え合い、協力して、みんなで鹿島のまちづくりに取り組むため

総合計画は、まちづくりの基本的な方向性そのものであり、これを策定し、明らかにすることは目標をみんなで達成していくための意思統一の手段だと捉えています。



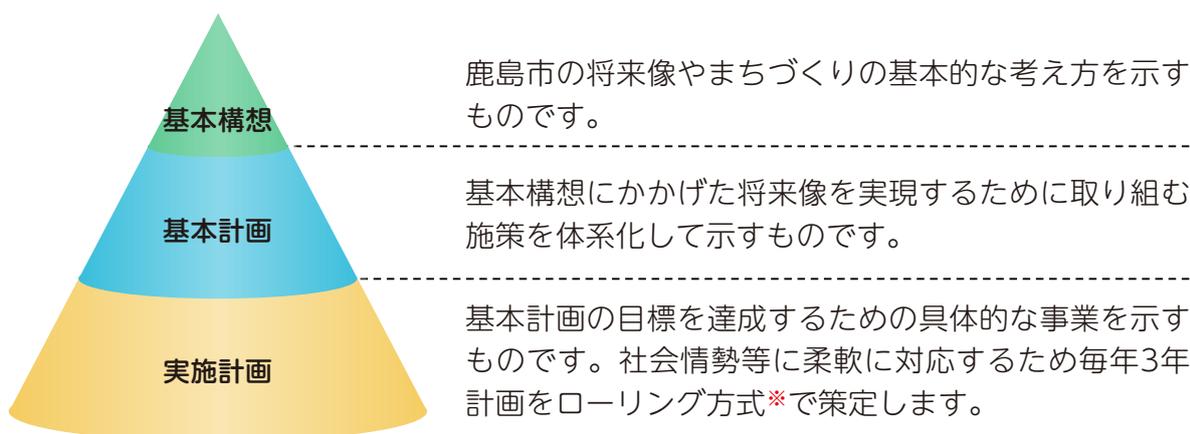
2 総合計画の位置づけ

総合計画とは、鹿島市の将来像やそれを実現するためのまちづくりの基本的な方向性を明らかにしたもので、市のすべての活動の根拠となる最上位の計画です。

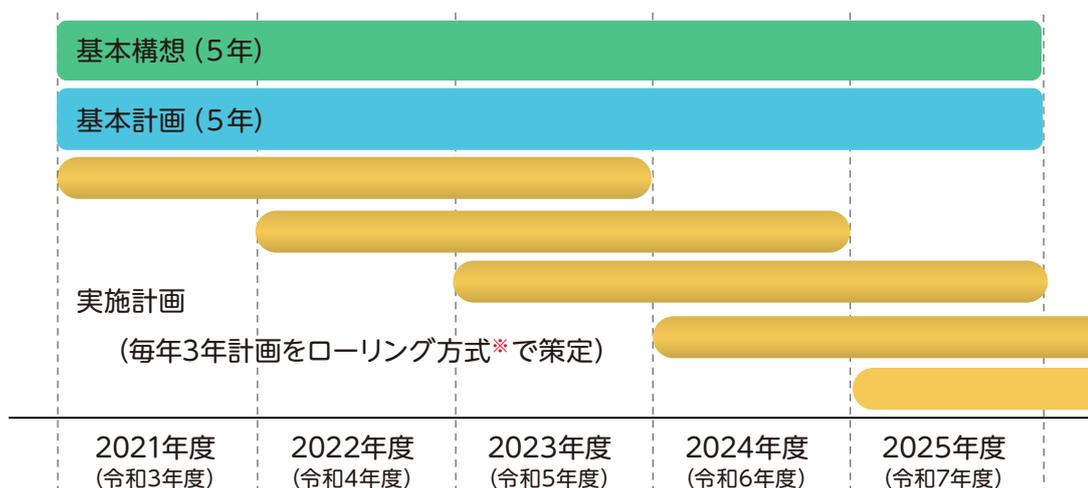
市民、地域などと行政がともに連携、協働して、誰もが住みやすく、暮らしやすいまちづくりに取り組む指針となるものです。

3 計画の構成と目標年次

この計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」から構成されており、基本構想・基本計画は2021年度（令和3年度）を初年度とし、5年後の2025年度（令和7年度）を目標年次としています。



総合計画 計画期間



^{*}マークは資料編の用語解説に説明あり。

4 総合計画策定のコンセプト

○基本構想・基本計画は5年間

目まぐるしく変動する社会情勢に柔軟に対応するために、5年間の計画期間とします。

○簡単な言葉で表現します

市民の皆様が見てわかりやすい計画になるように、行政用語や専門用語をできるだけ使用せず、簡単な言葉で、コンパクトな文章を心がけます。

○計画実現のために目標を定めます

目指すまちづくりの進捗状況を検証するため、施策や事業の数値目標を設定します。

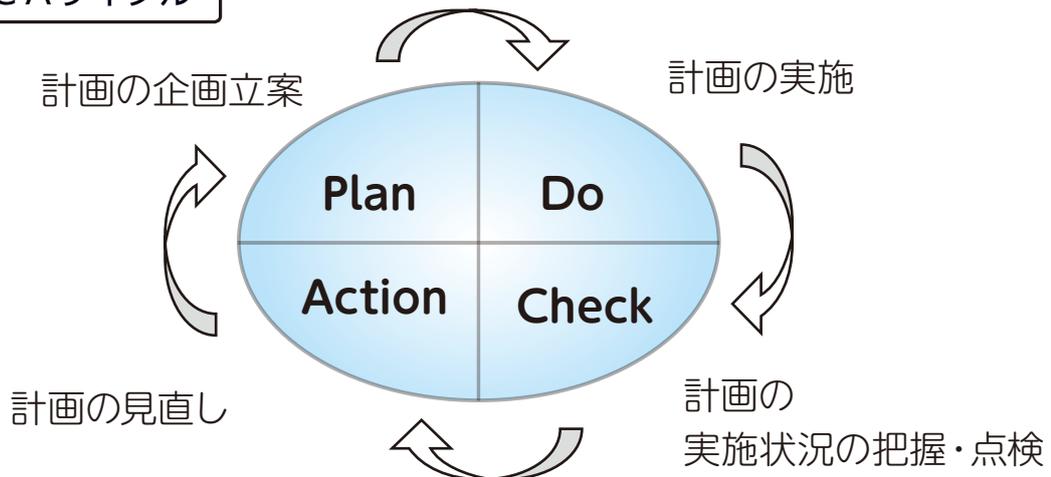
○これまでの事業の成果を反映します

第六次総合計画の事業の成果や課題を整理し、第七次総合計画に反映させます。

○その他の計画と整合させます

個別計画やまち・ひと・しごと創生総合戦略と整合を取り、統一性をもった総合的な計画をつくります。

PDCAサイクル

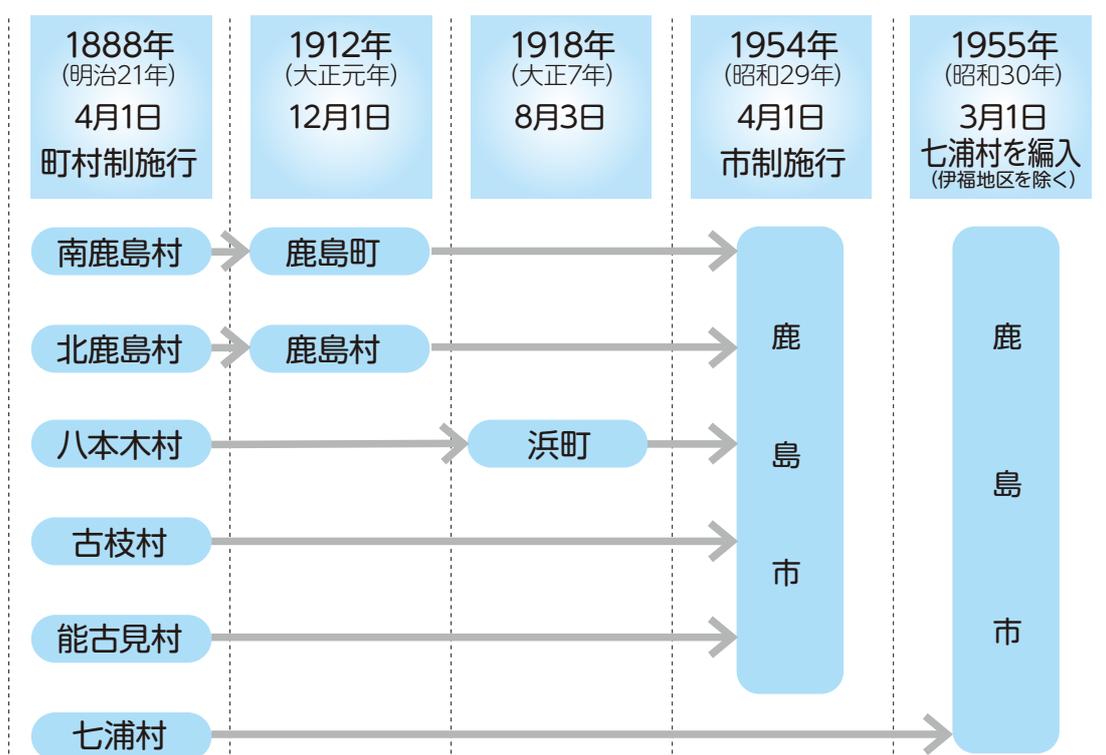


毎年、計画の進捗状況の把握と点検を行いながら、より効果的な施策の展開ができるよう3年ローリング方式※で策定する実施計画に反映させていきます。

5 鹿島市の概要

(1) 沿革

本市は、佐賀県の南西部に位置し、江戸時代は鹿島鍋島藩の城下町として栄え、明治以降は県南西部地域における政治、経済、文化の中心地として発展してきました。



(2) 本市をとりまく状況の変化

本市をとりまく状況は、様々な場面において、以下のように目まぐるしく変化していきます。

これらを踏まえ、第七次総合計画を策定する上で、近い将来見込まれる主な時代の流れを整理し、対応策を講じる施策を盛り込みながら、第七次総合計画を策定しています。

制度など

- 東京オリンピックの開催
- 国民スポーツ大会・全国障害者スポーツ大会佐賀大会の開催

建物・交通など

- 九州新幹線西九州ルート（長崎ルート）の開業
- 有明海沿岸道路*の福富ICまでの開通
- 新市民会館の完成
- 肥前鹿島駅前整備

今後の社会経済状況の展望と対策

[] は関連ページ

- 超高齢化による福祉関連（介護、医療、年金）保障費の増大 [P.29,35]
- 交通弱者の増加 [P.37]
- インフラの老朽化 [P.20,37,40,46]
- 防災、減災への意識の高まり [P.46]
- 情報通信技術の発展（AI、ロボットなども含む） [P.16]
- Society5.0*の実現（デジタル化による行政サービスの向上） [P.16]
- 持続可能な開発目標（SDGs）の推進 [P.17]

